ぎふの農業 美濃・飛騨 2019.JULY Vol.13
JABANK PRESENTS・Farmer's voice in Gifu

お客さんの「おいしい」がやりがい 味が自慢の 冬春トマト

各務原市蘇原 小林 照悟さん

岐阜の豊かな自然に育まれる農産物と生産農家を紹介するシリーズの13回目は各務原市蘇原の冬春トマトです。小林農園を営む小林照悟さん（36）はトマト界のスター品種「桃太郎」や、色鮮やかなミニトマトなど数種類のトマトを育てて16年。お客さんの「おいしい」の言葉に支えられながら研究とチャレンジを続けています。小林さんにこだわりの栽培方法や消費者に届けたい思いを聞きました。

もぎたて完熟トマトをハウス横の直売所で販売

小林さんが栽培するトマトのハウスは3か所あり、面積は合わせて約40アール。トマトの代表的な品種として知られる「桃太郎」の中でも糖度が高い「桃太郎ファイト」や、中玉の「フルティカ」、ミニトマト数種類を育てています。

「今、栽培しているトマトは大玉の桃太郎と、ごほうびという品種。ミニトマトはカラフルに袋詰めしたいので違う色のもの数種類を選んでいますが、品種は毎年変えています。ミニトマトは毎年新しい品種がどんどん出てくるので、育苗メーカーのデータを見ながら食味が良いか、病気に強いか、割れにくいかなど管理のしやすさも考えて選んでいます」

ハウスの中で、色鮮やかな果肉が緑色の枝から重そうに実る様子は、はちきれんばかりの完熟状態。すぐにもいで頬張りたくなるみずみずしさです。トマトは収穫された後、ほとんどがハウス横に設けられた直売所で販売（週末のみJAぎふ「おんさい広場」はぐり店にも出荷）されます。もぎたての甘さと適度な酸味を持ったトマトは口コミで評判を呼び、直売所はお客さんが途切れることがありません。

たわわに実った「桃太郎」

循環型農業が理想 不耕起で土づくり

トマトづくりを始めたのは、岐阜県農業大学校で野菜・果樹学科のトマトを専攻したことがきっかけです。高校卒業後、進路に迷っていた小林さんにお父さんが「農業をやってみたら」と進言。実家に人に任せていた農地があったため、小林さんは農業大学校を卒業して海津町のトマト農家で研修し、その後各務原で独立しました。しかし、最初は失敗の連続だったと言います。

「土の病気で半分近く枯れてしまったこともありました。そんなときは本を読んで勉強したり、先輩に相談したり。今年はこうだったから次はこう変えてみようとか。その積み重ねで、今の形に落ち着きました」

トマト栽培で重要なのは、日照と温度管理と水です。各務原の水道水源は地下水なので、ミネラルを含んだおいしい水はトマトにとっても恵みの水です。

そしてもう一つ、小林さんがおいしいトマトづくりのためにこだわっているのが「土づくり」です。

「不耕起栽培といって畑を耕さない農法で育てています。通常は収穫が終わった後の木は片付けてしまうのですが、うちでは機械でトマトの木を細かくして土に返します。これらの有機物が微生物のえさになり、良い土をつくります」

不耕起栽培は環境への負担も少なく、耕さない分コストダウンできます。「なるべく自然の資源を利用したやり方が良く、農業はそれができる産業だと思います。昔、農家では牛を飼い、栽培したものを食べさせて糞を堆肥にしていましたよね。そんな循環型が理想。土の良さを活かした栽培方法にこだわっていきたいです」

JAバンクのサポートで設備投資や販路拡大

7月中旬までの収穫が終わると土づくり。9月の定植から新たなシーズンが始まります。トマト栽培は天気や気候に合わせて環境を整えなければならない上、収穫は手作業のため人手が必要で、芽かき、摘葉、整枝など手間もかかります。そんな苦労が報われる瞬間が、お客さんの「おいしかった」の一言。「試行錯誤がうまくいったときは嬉しいですし、何よりお客さんに喜んでもらえることにやりがいを感じます」と、毎日の励みになっています。

徐々に拡大していったハウスはJAバンクのアグリサポート資金（※）を利用。「ここまで規模を拡大できたのもJAさんのサポートがあってこそです」と小林さん。「おんさい広場」での販売も知名度アップに繋がり、JAは欠かせない事業のパートナーとなっています。

「直売所にわざわざ来ていただけるお客さんの期待に応えられるように続けていかないと。今後は、そんなに高価過ぎず手土産にして喜んでもらえるようなプラスアルファの価値のあるトマトも作っていきたいです」と目標を語る小林さん。お客さんの声を肌で感じながら、より良いトマトづくりを続けます。

小林農園のみなさん

ハウスの天井近くまで伸びるトマトの茎

農の現場から／JAぎふ蘇原支店 小川薫さん

JAぎふ管内は美しい水、肥沃な大地に恵まれ古くから農業が盛んな土地です。JAぎふでは「農業者の所得増大」実現のため、農業生産の拡大と販売力強化などに取り組んでいます。生産コスト低減のための新しい技術や情報の提供を行うとともに、営農事業を強化し、地域の農業者に貢献して参ります。

また、イベントや収穫祭、市民農園、体験農園などの活動を通し一般の皆さまに農を身近に感じていただくと同時に、地域活性化に貢献できるよう事業を展開しています。今後も利用者の皆さまのニーズに応えながら、組合員の皆さまの支援を続けていきます。

本広告に関するご意見やご感想をお聞かせください。抽選で「小林農園のトマトで作ったトマトソース・トマトケチャップ」をプレゼント！

抽選で5名様にプレゼント

トマトケチャップ　トマトソース

バジルやオリーブ油などで味付けされたトマトソースは、そのままパスタやトーストなどにも使えてとても便利。風味豊かなトマトケチャップは甘口で、オムライスなどはもちろん、ピザソースや調味料としても美味しく食べられる一品です。

①郵便番号・住所②氏名③電話番号④紙面に関するご意見を明記して下記の方法でお申し込みください。
【はがき】500-8577（住所不要）
岐阜新聞 営業局
「ぎふの農業人」係

7月19日（金）必着

※個人情報は賞品発送において使用し、適正に管理します。
※当選者の発表は、賞品の発送（翌月予定）をもってかえさせていただきます。

※設備資金から運転資金まで、幅広い用途に活用できるJAの農業資金。詳しくは、JA窓口までお問合せください。

耕そう、大地と地域のみらい。

循環型農業を目指し、
土の良さを活かして育てられたトマト。
もぎたての甘さと適度な酸味、
“おいしい”を食卓に。

生産者のこだわりがつまった逸品を届けたい。
地域の一員として地域の未来を見守るJA

JAバンク 岐阜県下JA／JA岐阜信連

JAぎふ ／ JAにしみの ／ JAいび川 ／ JAめぐみの ／ JAとうと ／ JAひがしみの ／ JAひだ

── 岐阜県下JAは農業のメインバンクです ──